広島市教育センター

平成27年 ミニレター

写真：「新任教頭研修より」

9 月号

◆１ページ
・研修紹介（新任教頭研修）
・学校紹介（広島市立幼稚園）
・案内
（土曜特別セミナー１０月）

◆２ページ　教育最前線
・Ⅰ「アクティブ・ラーニング」を見据えた授業『数学科編』
・Ⅱ 教育委員会発！情報FLASH「特別の教科　道徳②」

研修紹介　「つながり」の視点から考える教頭の役割

７月１０日に実施の「新任教頭研修」では，教職員の協働性を生み出す学校づくりをテーマに講師の愛媛大学教育学部の露口健司教授よりお話いただきました。

教頭の役割として「つながり」の視点から次の３点を挙げられました。

1　校長のビジョンを分かりやすく職員に伝え，普段から良質なコミュニケーションをとっていくことや話しやすい雰囲気づくりを通して職員同士をつなぐこと

2　学校の取組を通し，より多くの職員や保護者，児童生徒を巻き込みながら相互のつながりを醸成すること

3　学校と地域・保護者をつなぐため，取組や成果などを分かりやすく伝え，地域・保護者の理解を図ること

これらの３つの視点を意識して行動することで，協働的な組織を生み出し，児童生徒の意欲の向上や教師の授業力の向上，保護者・地域への信頼の構築に向けた取組につながることや，教頭自身が「何ができるか」を考え行動することの大切さを学びました。

学校紹介　広島市立幼稚園

全園で取り組む　にこにこわくわく体操

「にこにこわくわく体操」は下の２点のポイントを考慮して広島市立幼稚園の教諭が考案したものです。現在，広島市立幼稚園では，毎年開催されている「広島市立幼稚園大運動会」において，この体操を取り入れた演技を全園児が発表するなど，全園一体となって園児の体力向上に取り組んでいます。

本年度の大運動会は平成27年10月27日（火）に広島県立総合体育館において開催され，プログラム１番で披露される予定です。

【平成26年度の様子】

ポイント1

動物になりきって遊ぶだけで，自然に多様な動きを身に付けることができる構成

ポイント2

ゆったりとした，リズムのとりやすい音楽

【とんぼの動き】

【あひるの動き】

１０月の土曜開館特別セミナー

１０月は，２つの土曜特別セミナーを，平成２７年１０月１７日に，広島市教育センターにおいて実施します。

セミナー１
９：３０～１２：００

「やってみよう！！コミュニケーションの『見える化』支援」

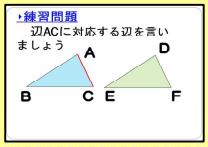
講師：古田　壽子先生
（本市専門家チーム委員）

※　このセミナーは発達障害者支援センターとの共催です

セミナー２
１３：３０～１５：３０

「パソコンで簡単な教材を作ろう！」

担当：梶江　博史　指導主事



教育最前線Ⅰ　シリーズ「アクティブ・ラーニング」を見据えた授業⑤

数学科編

学ぶ意義が実感できる活用問題の設定！

生徒が数学の学習に主体的に取り組むには，日常生活や社会のできごとを数学と結び付けて考察したり，処理したりする数学的活動を取り入れることが重要です。現在，各学校においては，教科書の活用問題等を使って，「数学の授業で学習したことが活用できるんだ！」「数学が役に立つぞ！」と実感できる授業を実践しています。

こうした授業をより一層充実させるためには，教科書の活用問題に加えて，教師自らが，学校行事，学級活動など生徒に身近な学校生活の話題を取り上げた問題を作成し，授業で活用していくことも必要ではないでしょうか。ここでは，各学年の問題例を紹介します。

第１学年「比例と反比例」

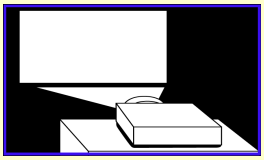
ペットボトルキャップを集めて，買い取ってもらい，そのお金でワクチンを買い，外国の病気の子どもたちに送る運動に参加したいと考えました。ペットボトルキャップ400個を10円で買い取り，ワクチン1人分は20円で販売されます。1個のペットボトルキャップの重さは約2.5ｇです。10人の子どもの命を救うには，約何ｋｇのペットボトルキャップが必要か求めましょう。

第２学年「確率」

男子３人，女子３人の班があります。この中から，くじ引きで修学旅行の実行委員を２人決めることになりました。実行委員の２人が同性になることと，２人が異性になることは，どちらが起こりやすいか，説明しましょう。

第３学年「三平方の定理」

左右それぞれ３０°ずつ合わせて６０°の範囲を照らすプロジェクターがあります。横幅４ｍのスクリーンにぴったり収まるように映すには，スクリーンから何ｍの位置にプロジェクターを置けばよいか求めましょう。ただし，スクリーンに垂直に光を当てることとします。



教育最前線Ⅱ　教育委員会発！ 情報FLASH

「特別の教科　道徳」

考え,議論する道徳へ　その２　～他者との相違点を導く工夫～

前号に引き続きこのコーナーでは，「特別の教科　道徳」における指導の工夫について考えていきます。

改正のキーワード「考え，議論する道徳へ」にむけて，前回は，子ども達が自分の考えを明確にもち，「いろいろな立場の考えを共有する」ための指導の工夫について紹介しました。

今回は，次の段階として，子ども達が自分と他者との共通点・相違点に気付き，それらを通して「テーマについて多様な考えがあることに気付く」ことができるよう，「規範性をはぐくむプログラム」より「勝利のホイッスル」という資料を例としてその指導方法の工夫を紹介します。

【勝利のホイッスル】
主題名４－(2) 正義をつらぬく

【資料の概要】

昨年度全国大会で優勝したチームと練習試合をすることになり親友の友也と自主トレをしてきたぼくは，当日審判をするように言われた。君しかいないといわれ「しっかり審判をしよう」と決め，試合に臨んだ。

０対０のまま時間が過ぎ，終了直前一本のパスから友也のシュートが決まった。しかしぼくは，シュートの前に友也の手にボールが軽く触れたのを見逃さなかった。

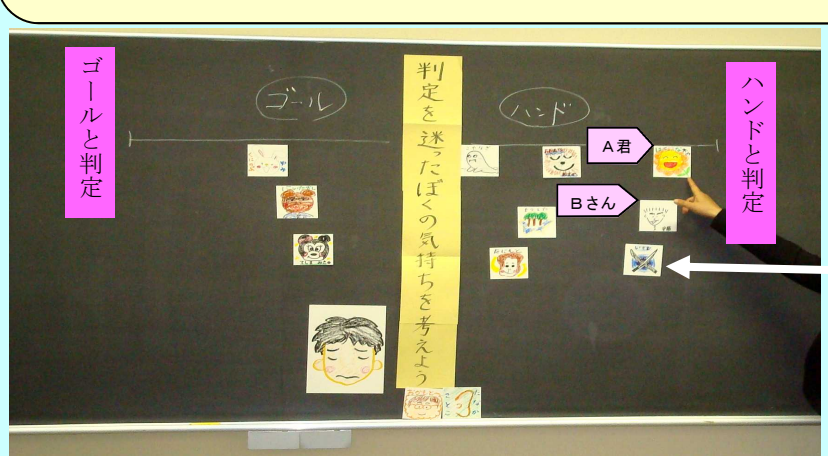
「ピーー！。」ぼくは言葉にまよった。どう判定すべきか……。僕はハンドの判定を告げた。

帰り道，冷たい視線を浴びる中「ナイスジャッジ」と声がかかり少しだけ気が軽くなった。

他者との相違点を導くための工夫：数直線

【ゴール】か【ハンド】どちらかだけでなく，迷っている部分を含めて，自分の判断を数直線上の位置で表します。その時，なぜこの位置に貼ったか理由を交流させることが重要です。交流の際には，自他の考えの共通点・相違点が明確になるように，指名する順序や言葉がけも工夫していきましょう。

下の指導例では，Ａ君の意見を聞いた後，Ｂさんに，Ａ君より少しだけ内側に貼った理由を聞くことで，共通点と相違点を明確にしました。また，カードの散らばりを実際に見ることで，テーマについて多様な考えがあることに気付くこともできます。



個人カード

年度当初に作成し，授業等で活用します。個人の考え・立場・役割等を明確にする場面で役立ちます。